

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校整理番号		7	
		学 校 名		青森県立弘前高等学校	
		全日制の課程			
		自己評価実施日		令和7年2月3日(月)	
		学校関係者評価実施日		令和7年2月14日(金)	
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成			
		学校運営協議会 委員 8 名			

自 己 評 価						学校関係者評価	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策	
1	授業第一主義の徹底とICTの活用（学習指導）	ア 自学自習による学習習慣の確立を支援し、ICTを活用して「個別最適な学び」を推進する。 イ 絶えざる研修と教材研究により「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善に取り組み、論理的思考力・応用力を育成する。	自学の姿勢を育てるため、教科担任による指導の工夫と働きかけ、ホームルーム担任による個人面談を行った。また、一人一台端末を活用した指導の研究と実践を重ねて生徒の「個別最適な学び」を推進した。研究授業、互見授業、研修、重点校事業への参加を通して教員の授業力向上にも取り組み、生徒の論理的思考力・応用力の育成を図った。	B	ICTの活用の部分について、教科の特性や固有性は重んじた方がよい。主体的・対話的で深い学びというイメージや姿自体にも教科の特性が関わってくるので、各教科の学びが深いとはどのような状態か議論の上にICTをどのように活用していくか議論を進めてほしい。ICTを使える教科はどんな行うべきだし、使いたらい教科は無理をしてやらなくてもよいのではと思う。反転授業について取り組むのも面白いと思うので、先生方に頑張ってもらって、県内に広く発信してくれば、県全体のレベルアップにつながるのではないかな。	授業へのICTの活用については一定の成果はあったが、教科の特性によってはICTの使用が限定的になっている場合もある。ICTの活用（タブレット端末の利用方法）についての研修とともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためのアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に継続して取り組む。	
2	豊かな人間性と社会性の育成（生徒指導）	ア 探究的な学習、体験活動及び部活動等における多様な他者との「協働的な学び」を通じて、逞しい心と体を培うとともに人権を尊重する態度を身に付ける。 イ 災害、事件、事故、感染症等に際し、自分自身を守る能力と他者の生命・安全を尊重する態度を育成し、学校安全を推進する。	総合的な探究の時間における課題や県重点事業「あおり創造学」プロジェクトへの取組、さらに弘高ねぶた運行、弘高祭開催、修学旅行、部活動等「協働的な学び」の機会を可能な限り設定して生徒の心身の育成に取り組んだ。過去の感染拡大防止の取組の経験や部活動事故防止チェックポイントの活用により、他者及び自身の健康・安全を守る意識、能力が育成された。	A	第2回学校運営協議会の際に、弘高ねぶたの在り方について議論したが、この活動自体が実践を通して他者との関わり方や自己を深く見つめる素晴らしい機会である。次年度は、弘高ねぶたを人間性・社会性の育成の大きな柱とすることをはっきりと打ち出してほしい。豊かな人間性と社会性の育成については、コロナ禍のような社会・環境の変化で実施できなくなってしまうこともあるので、その場合の活動方法を検討してほしい。	弘高ねぶたの安全な運行等のために、保護者及び地域の方々の協力を得て、多様な他者との「協働的な学び」をさらに充実させ、生徒の健全な心身の育成に取り組んでいく。また、各部活動で「事故防止チェックポイント」を作成し、それをさらに見直しで、より一層、自他の生命と安全に関して自発的かつ責任をもって活動できるよう取り組む。	
3	当事者意識を土台としたキャリア教育の推進（進路指導）	変化し続ける社会や世界にどのように参画していくかという当事者意識を土台とし、探究活動などによりセルフ・リーダーシップを育成するキャリア教育を推進する。	総合的な探究の時間における課題研究や職業人講話、出前講義等において、自己の適性と将来の進路について深く考える機会を設けることで、何事も当事者意識をもって、生徒は自ら設定した課題に主体的に取り組み、自らの進路を自身で決め、その実現に向かう能力を育んだ。	B	探究活動の成果を大学受験に役立てるというのは有意義ではあるが、強制度合いについては緩くてもよいと思う。探究のテーマと志望学部に関連性について、探究活動を通し、自己理解をもっと深めることで進学を考えることもある。探究活動について、1年生では幅広く文理関係なく取り組み、2年生ではある程度志望学部に沿ったテーマでもよいのでは。高校時代にこれをやってきたというのは武器になる。	多様化する大学入試に対応するため最新の入試情報の収集と還元に努め、生徒の進路志望・主体性を尊重した進学指導は今後も継続していく。また、生徒自身が主体的に自身の進路実現に向かって諸課題を乗り越えていく能力を培うために、各教科科目における探究活動との関連性を強めたテーマの設定を促すなどの改善に取り組んでいく。	
4	生徒、保護者及び地域と連携した学校改革の推進（弘高の持続可能性）	部活動改革、働き方改革、探究活動の充実、国際交流プログラムの開発、高等学校学校DX加速化推進事業などを通じ、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る「社会に開かれた教育課程」を実践する。	学校運営協議会も2年目となり、一緒により良いものを作っていくとする意見交換、提言の活発な場となっている。部活動改革、国際交流プログラムの開発についてはプロジェクトチームを中心に検討が行われ答申、中間報告を行うことができた。海外フィールドワークチャレンジ2024に参加した生徒の事前・事後発表についても委員に御意見をいただくことができた。まだまだ取り組まなければならない課題が多いが、よりよい社会を作る「社会に開かれた教育課程」を実践するために学校改革を推進していく。	A	国際交流開発プログラムについて、グローバルな人材を育てたいという思いから、今年度プロジェクトチームが立ち上がり、先生方のご尽力でいくつか実施できた。実際にそのプログラムに参加した生徒もいたり、海外フィールドワークチャレンジに参加した生徒もいたり、機運が盛り上がっている。プログラムがしっかりと動いているという文書を評価に加えてはどうか。また、来年度は評価項目2の具体的方策に国際交流開発プログラムを通して、グローバルな人材育成ということを入れてはどうか。	今年度は、部活動改革や探究活動の充実、国際交流プログラム開発について充実した協議を行うことができたが、今後も学校運営協議会における協議内容や取組の成果を学校ホームページなどを活用して情報発信をすることにより、保護者や地域住民等への理解促進につなげていき、「社会に開かれた教育課程」を実現を目指す。	

(11) 総括	学校教育を取り巻く様々な状況に対応しながら、学校教育目標達成のための重点目標に沿った教育活動を計画的に実践し、本校が担う使命と役割を果たすための教育活動を実践してきた。次年度以降も「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人（主体的に学ぶ生徒）」を育成するため、教員の指導力向上、教育環境の充実、地域や家庭、諸関係機関との連携を一層充実させ、これまで以上に学校が組織として機能する体制を整えていく。今年度の評価結果から見えてきた課題について、具体的な改善に取り組み、生徒が当事者意識を持って「自ら問いを立てる」ことができるような体制を作り上げ、重点目標の達成を図る。
---------	---